つし覚 うなをあししたで「 こりた記 いとのは胞れっ胞ろ とすこ憶 う物だなのにてのが がるとし 現忘さく減よい死長 ら時をを 象れず逆少るる滅年 がに思例 ががすにはとこ説定 記 いに 起激。增極 憶私返と きしでえ端高がはと さたしる るくはるに齢わ最さ れちたと のなな脳減にか近れ るはり ` 脳一`学 でつぜ細少なりのて して「胞すっま研き 細つ判ん 胞一断で よ一年もるてし究た

けてえしでのわはくし細れるで のたえ「かどとるの脳。間脳とでいらたい年れ若知く胞てた取「 °とる `lで細と違細こすくれ °く齢ていら入はいめり脳 かなっとにい人れれ年まの上ト らい亡い達まのて替齢すゲげレ だったうすす方おわり。1ら とのLふる。がりっと子ムれな 考は「うと逆向、てもどな、る え脳新に 、に上記い増もど脳言 ら細し言脳あし憶くえやがを葉 れ胞いわ細るや力 て若も活が てがこれ胞一すやこいいて性マ き死とてが定い暗とく人は化ス た滅がき死以と記は、のやさコ わし覚まん上思力よ新脳させミ

学脳 生 涯

涯 学 習 IJ

図のまむ化てあり学③を 昔の学家そ校日と学ャれ適しの習 生ので習庭もで本でぶとて切ていがさすど物なえいのにば神記士 人す┗教その人すこ生いに学つ目て の選②涯 °と育も教は °とまま評ぶで指話 「いも学育す」がれす価こもすは ま用流かな学る習態し |く人。「校」ぐ学でて°さと自社変 い間 , 、教をに習 す意町せがぶか ⁹ 教をに習きか簡れが由会わ でである。 こも たぬくて『心学」るら単るでにとり もまりの、浮校学社死に社き学はま たぬく - 学員素生脳また習とな学のでに学社かでび会ぬ言会 `習」す - が場びで勉入び会べの--まう-そ機人が に習会とを機せ方 で所たす強つが教ま授ととでととの会々、 関のでな豊能んがと す推もつかの。ういきでい。! て『育す業いい自『規成をが生 る進各でに活そまうるもこ □い生もが 「うう由オ定果選生涯 とる涯 ` `学とこにギさが択涯学

う忘くばく神 `使経憶が う回を神 やれな使そ経 ほ路呼経 6.3 う う回 しどなびで そ物とほで路 の覚えどすが 活何て齢こば 増 こ発かいにしれ り悪く く関てて まのに にいそす神活行そ係い あっが経動ううなまい でくすろ りので逆回し そ原すに路増時す、°い *使はえは °使ころ

では「わ使てに特えのな同

\bigcirc T(3) 2 6 (5) (1)締 内 申 費 E 講 会 日 L 師 切 用 容 込 U 4 五5 子 ミ渡 無 六 高 7 تلح 九月 ュ辺 崎 . 電 Ł =市 時十 2 話 ケ照 \mathcal{O} 半三 市 1に 心 民 5 目 子 $_1$ $^{\tau}$ を 活 +_ 1町 彐 話育 ン先 動 して ス生(セランン 時) 內育 方る 半 2委 の接

ア

ス

主

2 員

3 会

すべての世代の方のための生涯学習

まい軽問 °に、 ^よ楽教ご うし育要 く委望 学員等 ん会ご でまざ 脳でい をごま 活連し 性絡た 化くら さだお

せさ気質

コし

ツ方



参加してい ただいたみ なさん、お つかれさま でした!



考にで満山ポなま方こ心登の えもい足口 | 奥しがた配山休口 て参まげでチ多た `えさ大日^月 い加しな冷を野 °新 `れ会に一 ^まをた様た受のゴ緑五まが *`*十 す呼 °子いけ景丨の百し行体^九 び来で飲取色ルみ名たわ育日 か年春みっをのかをがれ協へ け度の物た堪山ぼ超 `ま会火 ては一を参能頂登えどし主 い近日受加しで山るうた催 き隣をけ者 `はを町に゜の昭 た市楽取は記、楽内か天み和 い町しり `念雄し外持候かの と村ん、登の大みのちがぼ日

行み わか れぼ ま登 しか大 会 が

神 な りで奥藤田新大黒高 流 ます山巻村井熊澤橋 町 \mathcal{O} 秀裕嘉裕幸静秀お " 青 典和崇治子江成 少 推 話さささささささ 員

にんんんんんんんん



よにき非さまりんなるた付招西め域と行青 ろはま行んたやだど「 。しき部てのはわ少四 しおしのに、す問、子一てし教く非青れ年月 く世た現も万く題いど、い、育れ行少ま健士 了てし教く非青れ年月 お話。状参場おなじもがた県事る防年し全七 願に委な加・話どめはかだ知務方止のた育^日いな嘱どし中し群問地かき事所でや健。成本 、よよす社全青推) りを乃て里く馬題域れ ま受おい両だ県や<u>にば</u> しょ又おい両だ県やにが講りり。会育少進神ますけ話た駐さの携育子義の竹当環成年員流すがたしだ在い現帯」どを委内日境の奈の。、7をキモン がたしだ在い現帯^よどを委内日境の育の町 、7をき所ま状電_{ても}受嘱先は浄た成委役 ど名い、のしを話いもけ状生県化め推嘱場 うのた少所たわがるかまをを教に、進式で

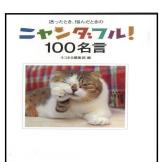
まの青 し委少 た嘱年 式育 が成 行推 わ進 れ員

ぞ方だ年長 °か絡」 わし交お委努地員が 味然してはく を迎 花

心々のまし 神流町を は人の 輝 手で 年 晴 好 た。 が 桃 は ら 終 個 はの 源

つ季く節 わ 郷 これ い ij の 財 でとなり 産のひ-れませ 、本格的なごとく彩 か、 ひと ま 緑 がお初 そうい 口然を楽 だなと思 て 夏 美 ま の す い 自 美 れの

馬のの発行法



偉人達の名言に可愛 い猫たちがベストシ ョットで登場!いやされること間違いな



開城前夜の江戸城を 舞台に一人で勤番は、人で動構しての旗本を引き、大きなが、大きない。 浅 田

